



2 0 2 1

「ガラスの街とやま」

富山市は、ガラスの街づくりに取り組んでいます。詳しくは、富山市ホームページ内「ガラスの街とやま」をご覧ください。

<https://www.city.toyama.toyama.jp/>

Toyama, home of the Toyama Institute of Glass Art, is a special place. Nestled between the towering peaks of Japan's Northern Alps and the deep waters of Toyama Bay, it is rich with culture, natural beauty, and the possibility of adventure. Leisure time can be spent visiting the extensive collection at the Kengo Kuma-designed Toyama Glass Art Museum. You can explore countless temples and shrines, go skiing and hiking around Mt. Tateyama, one of Japan's three "Holy Mountains", or visit a steaming onsen and enjoy the famous local cuisine. Each new season colours the region with a unique beauty as local festivals mark their arrival as they have for centuries. Toyama's international airport and Shinkansen station conveniently connect Toyama to Japan and to the rest of the world. Come to Toyama, become a part of the TIGA community, and become a part of something very special.

Toyama Institute of Glass Art (TIGA)

The Glass Certification Studies Program (G. C. S.)

G. C. S. has a duration of 2 years. The first and second year classes each have 16 students. A high school diploma or the equivalent is required to apply.

Advanced Research Studies Program (A. R. S.)

The ARS program is a 2 year research course with a total of 10 students. Each year TIGA accepts only 5 applicants to the 1st year A. R. S. class. Undergraduate degree or equivalent glass experience is required to apply.

Visiting Scholar Program

The Visiting Scholar Program is a 3 month, 6 month or 1 year course designed to research glass art according to an individual study plan. TIGA accepts applicants depending on our current enrolment.

For information regarding the Japanese language requirements needed to study at TIGA, please contact us at tigainfo@toyamaglass.ac.jp



所長からの挨拶

Message from President

当研究所は、プロのガラス造形作家の育成を目的として1991年に設立され、本年で30周年を迎えました。

この学校の特徴は、指導する教授陣が充実していること、設備が整った環境の中で、ガラスの専門教育を学べること、2名の外国人教師による指導や著名な海外作家によるワークショップ、交換留学制度など海外との交流が盛んであること、さらに様々な分野の講師による特別講義など、常に学生に刺激を与えられるようカリキュラムを充実させています。

550名余りの卒業生の多くは、プロのガラス作家として国内のみならず海外でも活躍しており、教員や卒業生はもとより、在学中の学生達も国際ガラス展や公募展などで数多くの受賞実績があります。

富山市では、「ガラスの街とやま」をまちづくりのひとつの柱として掲げ、約30年をかけてガラス芸術の振興に関する数々の施策を展開し、本研究所や富山ガラス工房、アーティストハウスの整備を行い、さらに2015年にはガラスの街づくりの集大成として、富山市ガラス美術館が開設され、ガラスの街にふさわしい環境ができています。

また当研究所においても、2010年には敷地内に学生宿舎棟、アーティストハウスを整備する等、教育環境の充実を図ってきています。現在、「ガラスを総合的・専門的に学ばず富山で・・・」と、海外留学生を含め37名が学んでいます。

世界的な新型コロナウイルス感染症の流行により、本研究所におきましても国際的な交流活動が制約を受ける状況下ではありますが、学生の皆さんがガラス造形の専門的知識や技能を習得し充実した学生生活を送ることができるよう、私たち教職員一同、全力でサポートしています。本気でガラス作家を目指す、意欲あふれる皆さんの入学を期待します。



所長 恒川哲二 / Tetsuji Tsunekawa

主任教授からの挨拶

Message from Head Professor

富山ガラス造形研究所へ入学してくる学生達は、皆それぞれの夢を抱いて全国から集まってまいります。そして、ここで二年間学んだ後にまたそれぞれの道へ進みます。高度な手業を持つ工芸作家を目指す者、ガラスを素材とする造形作家を志す者、日常生活を彩る器を制作する者、建築やインテリアなどの空間をデザインする者など、その進路は多様で、卒業生達は当研究所で過ごした時間を夢の礎として、国内外の様々な分野で活動しています。私たちは、大きく変わりつつある今日の生活の中で、ものづくりの意義が見直されている今この時代に、自身の未来をガラスに託す学生たちの夢を応援してまいります。



主任教授 本郷 仁 / Jin Hongo

設置学科

Courses

造形科	修業年限 2年 入学定員16人
入学資格	高等学校卒業生及び卒業見込みの者、又はこれに準ずる学力があると認められる者。
研究科	修業年限2年 入学定員5人
入学資格	当研究所造形科を卒業した者、又はこれと同等以上の知識、技能を有すると認められる者。 ※美術系の大学を卒業した者など

顧問

武田 厚

Adviser

美術評論家、多摩美術大学 客員教授

運営委員

Committee 【敬称略、五十音順】

川上 典李子	21_21 DESIGN SIGHT アソシエイトディレクター
川本 敦久	金沢卯辰山工芸工房 館長
武田 厚	研究所 顧問
中村 滝雄	研究所 非常勤講師
長島 美穂	マイルストーンアートワークス 代表
西 治子	研究所 非常勤講師
西岡 秀次	富山商工会議所 専務理事
野村 潤	元富山市上下水道事業 管理者
平野 淑子	富山市工芸美術作家協会 会長
藤田 潤	日本ガラス工芸協会 会員
雪山 行二	富山県美術館 館長

ホットワーク I / Hot Work I

准教授 ボイド・スギキ / Boyd Sugiki (中神 牧子 / Makiko Nakagami)



ホットワーク I では、タンブラー、シンダー、ボウル、ボトルなど、さまざまな形を形成するために必要な基礎を身につけます。共同制作などを通して、技術習得と向上に取り組み、オーバーレイやケイン、チューブ制作では、さまざまな色ガラスの扱い方も学びます。



02

ホットワーク II / Hot Work II

准教授 中神 牧子 / Makiko Nakagami (ボイド・スギキ / Boyd Sugiki)



一年時で学んだ吹きガラスの基礎から、二年次ではそれを発展させ高めていく場になります。デモンストレーションを見ることが、課題を通してアイデアを広げ、リサーチや実践実験を行い、新しい可能性も探っていきます。また独自の作品を制作し展示をすることも学びます。



※二年次はキルンワークまたはコールドワークのどちらかを選択することになります。 **キルンワークⅠ・Ⅱ / Kiln Work I・II**

准教授 松藤 孝一 / Koichi Matsufuji



一年次は、キルンワーク（電気炉でガラスを成形する作業）の基本的な技術を学びながら、ガラスの特性を見つけていく作業になります。
二年次は、初年度で学んだキルンワークの技法やガラスの特質をもとに、自作品のオリジナリティを追求していきます。グループディスカッションや校外学習を通して様々な角度からガラスの作品化を目指します。



03

コールドワークⅠ・Ⅱ / Cold Work I・II ※二年次はキルンワークまたはコールドワークのどちらかを選択することになります。

准教授 ヤロスラフ・シャーラ / Jaroslav Sara



このコースは、コールドワークの技術を基本に、美術や工芸を勉強することが出来ます。学生は、授業の中でガラスのカット、研磨、サンドブラスト、接着を学びます。また課題の中で、吹きガラスやキルンワークなどの作品と組み合わせることもチャレンジします。学生は、課題に取り組みながら、創りたい作品のデザインを学び、そして技術の習得だけでなく、自己の作品を完成させることに重点を置きます。

造形科の授業

Glass Certification Studies Program

基礎造形 / Foundation

平面 / 2D

担当 西 治子 / Haruko Nishi

もし自分を「物」で表すとしたらどんなものになるでしょうか。象徴または記号化の試みです。身の回りにある「特別な」物を描くデッサン、自分のための選りすぐりの色見本を作る、心引かれる形を収集する。自由な発想を大切に、感じた心を確かな表現で伝えることができるように課題を構成しています。



立体 / 3D

担当 加治 晋 / Susumu Kaji

立体表現の美的要素を体系的に理解、習得するための導入部として、前期は「自然」をテーマに粘土、石膏の塊材を使用して、基本的な造形の探求を行います。後期は素材を主体的に選択する自由制作により、表現技術と素材の美的認識を深めていきます。



集中講義 / Intensive Lecture

ガラス工芸史 / Glass History

担当 畠山 耕造 / Kouzou Hatakeyama

この講義では、ガラスの起源から現代ガラスまで、幅広くガラスの歴史を学ぶことができます。時代を切り開く斬新な発想や、それを支える技術の展開をたどることで、現代の作り手に何か制作上のきっかけがもたらされることを期待します。隔年の開催になり、年間4回の講義が行われます。

ガラス材料学 / Glass Material Study

担当 吉野 徹 / Toru Yoshino

この講義では、材料学の研究者の視点から物質としてのガラスを学ぶことができます。「ガラスとは何か」というような分子構造の疑問から建材や工業製品のガラスに至るまで、最古の人工素材と言われるガラスの魅力に迫ります。隔年の開講になり、年間4回の講義が行われます。

写真講義 / Photography Study

担当 岡村 喜知郎 / Kichirou Okamura

この講義では、カメラの基本的な使い方から画像グラフィックデザインソフトウェア、フォトショップによるデジタル編集の仕方まで幅広く写真の技術を学ぶことができます。研究所では、写真室や撮影用機材、またデジタル編集用コンピュータの設備が整っており、年間1回の講義が行われます。

04

選択科目 / Elective Subjects ※二年間で二科目を選択することになります。

バーナーワーク / Lampworking

担当 猪野屋 牧子 / Makiko Inoya

授業では酸素バーナーを使って、ホウケイ酸ガラスという一般的には理化学容器やガラス食器などに使われる耐熱ガラスを使用します。ガラスパーツを繋ぎ合わせて大きな作品を作ったり、管ガラスを使ってゴブレットを作る等、様々な技法や表現方法があります。この授業を、ガラスの様々な可能性と自分なりの表現を探る機会にして欲しいと思っています。



ステンドグラス / Stained Glass

担当 八田 雅博 / Masahiro Hachida

言葉としてよく知られているステンドグラスは、鉛の影と透過する色ガラスの組み合わせと、技法をベースに認識されています。ここではそのガラス素材自体の追求、それから派生する技法の可能性、そして深く関わりを持つ建築空間での統合要素としての在り方について実習し、最終的に意義のある自己表現との接点を探ります。



ジュエリー / Jewelry

担当 森田 弘美 / Hiromi Morita

ジュエリーの制作は幅が広く奥深いものです。最初の課題では彫金の基本である、糸鋸作業、ヤスリ作業、そしてロウ付け作業を総合的に学べるように、ペンダントを制作します。次に銀を使い指輪を制作し、修了制作では自由制作として各自が目指す世界観を表現する作品を制作します。



金属加工 / Metalwork

担当 中村 滝雄 / Takio Nakamura

金属は塑性を有し、加熱すれば変形が容易になり、冷却あるいは加工硬化させれば強固になります。その素材に切削・切断・曲げ・打撃などの加工を施し、さらに溶接をして接続していけば多彩な造形が可能となり、また金属独特のマチエールを引き出すことによってアイデアをリアルに実現させることが可能になります。特に近年、溶接は金属の造形に不可欠な手法であり、ガラス造形の表現域をも広げるツールになります。



研究科の授業

Advanced Research Studies Program

応用造形 / Applied Art

担当 本郷 仁 / Jin Hongo



大阪産業大学とのスカイプミーティング

このクラスは研究科一年生のために設けられました。制作と批評のもととなる様々なテーマについてリサーチし、各自の制作についてより深く考えます。また制作実習では、様々な素材による造形演習をもとに、視覚言語としての造形基礎を学んでいきます。



大阪産業大学との共同プロジェクト

研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ / Research Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ



本郷主任教授による吹きガラスの授業風景

研究科では、5人の教授陣の指導のもと、一年次は各自の研究テーマに基づいて、作品の検証とアイデアの展開を進めていきます。二年次には作品のオリジナリティをより深め、修了制作へと進んでいきます。

学生1人に対して1名の教員がチューターとして常に指導を行い、その担当教員を中心に教授陣が作品のアイデアから技術的な面までサポートをします。また、定期的に各教授陣の専門講義も組み込まれています。

制作アドバイザーとして、渋谷良治（富山市ガラス美術館館長）による助言も適宜、行っています。

研究科では、週に2日間吹きガラス実習室で制作する時間が設けられています。



2020 年度 秋ワークショップ作家
小曾川瑠那氏



2020 年度 秋ワークショップ作家
神代良明氏



ワークショップ Workshops

06

幅広い視野とグローバルな技術や考え方を身につけるために、現在国内外で活躍している著名作家を招聘して、春と秋に1週間のワークショップを行っています。その土日には、公開制作や学校説明会も開催しています。また秋のワークショップでは、学内展を開催して、学生の作品を紹介しています。※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、公開制作や学校説明会は中止となることがあります。



2020 年度 秋ワークショップ作家
佐野曜子氏



2020 年度 秋ワークショップ作家
佐野猛氏



2020 年度 秋ワークショップ作家
佐々木伸佳氏

特別講義 Special Lectures

広く見聞を深める目的で開講する特別講義は、現代アート、建築、彫刻、デザイン、陶芸等、ガラス以外にも様々な分野で活躍されている方を招き、2時間程のスライドレクチャーを行っています。通常の授業では補うことのできないガラスの各種技法や、新しい表現方法、当研究所の卒業生の活動等も、この講義を通して紹介されます。

令和2年度 特別講義講師 【敬称略】

津坂 陽介（ガラス作家）

サプロウ（ガラス作家）

関島 寿子（バスケット製作者）

ミロコマチコ（画家・絵本作家）

張 慶南（ガラス作家）



講評会 Critiques

前期と後期の締め括り、そして卒業制作展の講評会に、当研究所、5名の教授陣の他、外部より講師を招き、講評をしていただいています。この講評会で、いろいろな意見をいただき、次の作品制作に向けての指標になっていきます。

令和2年度 講評会講師 【敬称略】

馬越 寿（ガラス作家）

青木 宏暲（漆作家、東京藝術大学准教授）

佐々木 類（ガラス作家、金沢卯辰山工芸工房専門員）

武田 厚（美術評論家、富山ガラス造形研究所顧問）

皆川 明（デザイナー）

青木 野枝（彫刻家）

中田 ナオト（陶芸家、名古屋芸術大学准教授）



アーティスト・イン・レジデンス Artist-in-Residence

現在11回目で、国内外で活動するガラス作家を公募し、約1ヶ月半、富山に滞在しながら作品を制作します。また、その滞在期間に一般向け公開講座や学生を対象とした講義などを通して、地域や学生との交流を図ります。レジデンスの後半、富山市ガラス美術館で個展形式の成果発表を行います。富山の自然豊かな環境の中で制作に取り組む事ができ、その成果は滞在期間終了後も作品として富山ガラス造形研究所に残っていきます。※令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、中止となりました。

令和元年度 レジデンス作家

レッキー・ガスマン氏



リサーチ・スタディー Research Study

リサーチ・スタディー（研究生）は1年、6ヶ月、3ヶ月の中から期間を選択し、ガラス制作の研究を行うことができます。出願資格は富山ガラス造形研究所研究科を卒業した方、またはこれと同等でガラス作家として2年以上の経験を有する方になります。

※年度によっては募集していないこともあります。



交 換 留 学 制 度

Overseas Exchange Program

提携大学の協力により、交換留学制度を設けています。選ばれた学生は、約3ヶ月間、海外でガラスを学ぶことができます。

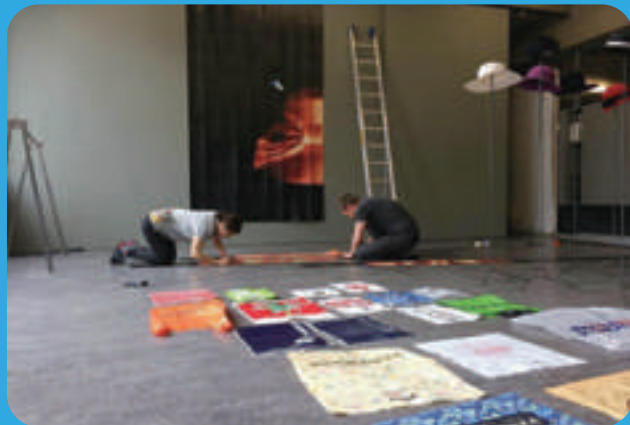
※年度によっては募集していないこともあります。

[提携大学]

国立大学キャンベラ美術学校（オーストラリア）

プラハ美術建築デザイン大学（チェコ）

ヘリットリートフェルト大学（オランダ）



2017年短期留学、ヘリットリートフェルト大学
研究科2年 佐々木 光（平成29年度卒）

海 外 研 修 助 成 金

Summer Workshop Scholarships

海外では、数多くの短期ワークショップが毎年開催されます。学生は、夏休みを活用してそのワークショップに参加することができます。選ばれた学生は、提携校から助成金を得て、海外でガラスを学ぶことも可能です。

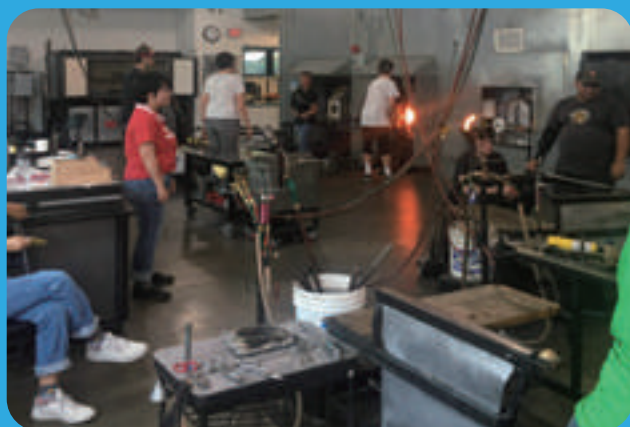
[提携機関]

アーバングラス（アメリカ）

コーニングガラス美術館（アメリカ）

ピルチャックガラス学校（アメリカ）

ヘイスタックマウンテン工芸学校（アメリカ）

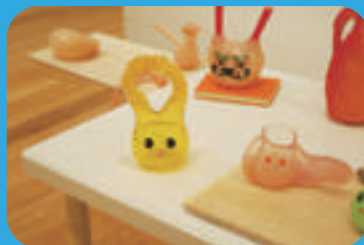


2019年夏季ワークショップ受講、コーニングガラス美術館
造形科2年 丹羽 葵莉子（令和元年度卒）

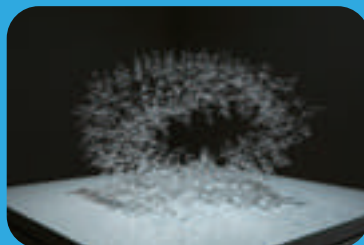
卒 業 制 作 展

Graduate Exhibition

平成27年度より、卒業制作展を富山市ガラス美術館で行っています。学生は、2年間の集大成として、ガラス作品を展示します。毎年、展示作品の中から優秀賞や特別審査員賞などが与えられます。令和元年度から卒業制作展記念講演会を開催し、昨年度は、デザイナーの皆川明氏と彫刻家の青木野枝氏を招き、講評会と特別レクチャーを行いました。また、8日間の展示期間に1,027名の方がご来場しました。



令和2年度 優秀賞
インスタレーション作品
研究科2年 岩本 悠里



令和2年度 優秀賞
作品「colony」
造形科2年 高木 香織



富山市ガラス美術館



卒業制作展記念講演会（キラリホール）

校外授業 Field Research



立山博物館まんだら遊苑見学（立体）

授業の一環として校外学習があります。それぞれの学年やクラスで、その専門分野の展覧会や工房などを見学します。



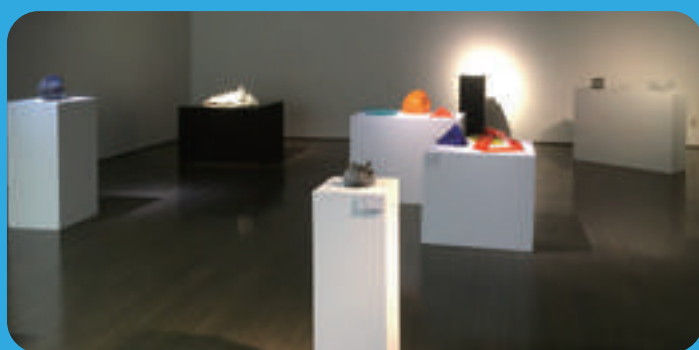
展覧会の見学（研究科応用造形）

学外展示授業 Student Exhibition



笹牛人記念美術館での搬出風景（立体）

授業の一環として、学生主体で展覧会の企画から展示作業までを学びます。この経験が、卒業後の作家活動の手助けにもなります。



名古屋芸術大学での展示風景（キルンワークII）

地域連携授業 Institutional Collaboration

平成30年度に、スタジオジブリと富山ガラス造形研究所の学生や教員が、富山市ガラス美術館展覧会「ジブリの大博覧会」のガラス作品（灯籠）を共同で制作しました。



©Studio Ghibli

学生の声 Student Voice

入学したきっかけは

母親の勧めでした。高校三年生の僕には特にやりたいことが無く、なんとなく生きていました。そんなある日、母は自分の趣味だった吹きガラスを学ぶことを提案し、母の習っているガラスの先生がこの学校を紹介したのが始まりでした。



研究所に入って

場所、設備、人材、どれをとってもここは優れてるなと思います。他にも特別講義やワークショップなどで、外部から来る作家方に直接会うことができ、自分たちの制作や生き方に影響を与えられると感じました。また、自分の知らなかった作家やガラス以外の素材を用いて作品を作っている方が来るので、非常にためになり新しい発見があります。

「我らの子」ホットワーク、コールドワーク 2021年

将来の夢

卒業後は自分の夢であるお酒のグラスを吹いていくために、今は自分の技術を上げていきたいと考えています。きっかけはお酒好きな母でした。母は必ず楽しくお酒を飲み、それに付き合う父も楽しそうなのを覚えています。そして今の僕はガラスを学んでいてグラスを作ることができます。そのグラスで両親のように楽しくお酒を飲む人たちの充実した時間を、共に過ごせるようなグラスを生涯吹いていきたいので、まず工房で働き、プロダクションと社会での生き方を学びながら自分の工房を持つために努力をしていきたいと思っています。

渡井 佑吏

/ Yuuri Watai

研究科1年生



10

卒業生の声 Alumni Voice



生まれた時から

ガラス作家の家庭で育った私は、幼い頃から自宅にガラス作品がある環境で育ちました。中高大学とガラスとは関係のない学校に進学しましたが、大学生の時に自分の人生を改めて考えた時、ガラスの道に進もうと決め富山ガラス造形研究所への進学を決めました。

研究所での生活は

とにかく忙しかったです。課題も多く、美術系の学校に通っていなかった自分にとっては大変でした。しかし色々な課題を通して自分なりの技法を見つけていくのはとても充実したことでした。特に卒業制作は2年間の集大成ということもあり、とても大がかりになりますが、本気で取り組めば必ず自分の未来に繋がると思います。

「彼岸過ぎまで」
フュージング、サギング、酸腐食
2020年

卒業後は

富山に残りレンタル工房を使い制作をしながら作品を発表をしています。研究所では設備からスケジュールまで管理

されていますが、卒業後は全て自分で管理しなくてはなりません。それはとても大変なことですが、その中で良い作品ができた時の喜びは忘れられません。この春、私も初の個展を行いたくさんの方々自分の作品を見てもらいました。苦しいことも嬉しいことも含めてガラス制作だと考えています。



藤田 創平

/ Souhei Fujita

経歴

1992年千葉県生まれ

2016年早稲田大学教育学部卒業

2018年富山ガラス造形研究所 造形科卒業

現在 富山を中心に活動中

卒業後の進路 Activity after TIGA

富山ガラス造形研究所は、全国で初めての公立のガラス造形教育機関として平成3年4月に開校し、これまで、造形科と研究科から多くの学生を送り出し、ガラス造形作家として富山市内はもとより国内外で活躍し、我が国のガラス芸術の発展に寄与しています。

令和2年度卒業生の進路は、研究科に進学2名、民間のガラス工房や工場に就職4名、県内外で作家活動5名など、数多くの卒業生がガラス関係の道に進みます。

以下のサイトで過去の進路先を確認できます。

<https://toyamaglass.ac.jp/subject/>





本郷 仁 / Jin Hongo

「風景装置#5」

1987 東北大学工学部金属加工学科卒業

1990 東京ガラス工芸研究所研究科卒業



中神 牧子 / Makiko Nakagami

「吹きガラスの器に庭の植物をいける」

1994 愛知教育大学総合造形ガラスコース卒業

1999 金沢卯辰山工芸工房研修者修了

教員の作品紹介 Introduction of Teacher Work

富山ガラス造形研究所は、40名の学生に対して、5名の経験豊富な専任教授陣と8名の非常勤講師が指導をしています。また、常時2人の専任外国人教師を迎えており、国際色にも恵まれています。それぞれの教員が作家としても制作をしており、国内外で活躍をしています。学生は、その指導やアドバイスを受けると同時に、制作過程なども身近に見て勉強ができる環境が整っています。



松藤 孝一 / Koichi Matsufuji

「不思議花赤子坐像」

1995 愛知教育大学総合造形ガラスコース卒業

2001 イリノイ州立大学美術学部修士課程修了 (アメリカ合衆国)



ヤロフスラフ・シャーラ / Jaroslav Sara

「Der Tapfer」

2006 BcA, University of J. E. Purkyně, Faculty of Art and Design (チェコ共和国)

2009 MgA, University of J. E. Purkyně, Faculty of Art and Design (チェコ共和国)



ボイド・スギキ / Boyd Sugiki

「Striped Bowls」

1996 Master of Fine Arts, Rhode Island School of Design (アメリカ合衆国)

1991 Bachelor of Fine Arts, California College of Arts and Crafts (アメリカ合衆国)



野邊 晋亮 / Shinsuke Nobe

「孔雀の求愛」

2006 東海大学工学部建築学科卒業

2017-2020 株式会社野口硝子に勤務（工房長）



常盤 杏奈 / Anna Tokiwa

「世界のおまもり-平和-」

2013 倉敷芸術科学大学芸術学部美術工芸学科ガラスコース卒業

2015 富山ガラス造形研究所研究科修了



草薙 聖子 / Seiko Kusanagi

「Perspective」

1999 神戸芸術工科大学芸術工学部視覚情報デザイン学科卒業

2019 富山ガラス造形研究所造形科卒業

助手の作品紹介 Introduction of TA Work

常時5名の助手が、各担当の授業で学生の制作をサポートし、学生により近い目線で授業の指導も行っています。また、それぞれの助手が若手作家として国内外で活動をしており、世界に羽ばたいています。学生は卒業後の活動を身近に知ることができます。

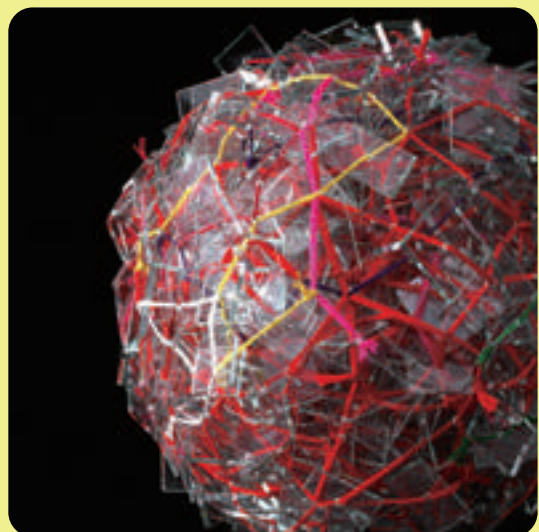


富永 一真 / Kazuma Tominaga

「いつかのときを」

2010 大阪芸術大学芸術学部工芸学科ガラスコース卒業

2020 金沢卯辰山工芸工房技術研修者修了



橋本 亜紗 / Asa Hashimoto

「Mercurial Heart」

2000 パーソンスクールオブデザインファインアーツ科卒業（アメリカ合衆国）

2018 富山ガラス造形研究所造形科卒業

富山ガラス造形研究所 Toyama Institute of Glass Art

表紙作品「たれる」
造形科2年
清田 翔衣 (令和2年度卒)
写真 / 岡村 喜知郎

入学者の選抜方法 (令和4年度)

造形科 平面・立体実技試験/面接試験
※推薦入試はポートフォリオによる作品審査/面接試験
※日程など詳細は学生募集要項をご確認下さい。

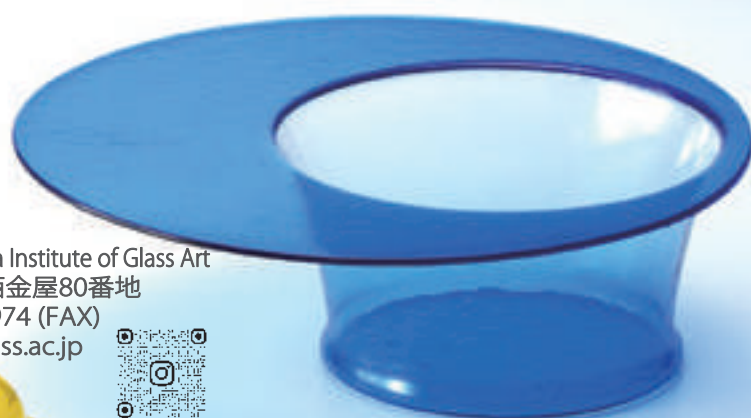
研究科 ポートフォリオによる作品審査/面接試験
※日程など詳細は学生募集要項をご確認下さい。

入学考査料 18,000円
入学料 135,300円 (富山市内居住者)
169,200円 (その他の者)
授業料 390,000円 (年額)
※令和3年4月1日現在

*奨学金制度 (日本学生支援機構等) あり
*授業料減免制度あり
*学生用アパートあり
(詳細はお問い合わせ下さい)

当研究所は、学校教育法第130条第2項の規定により認可を受けた富山市が設置した専修学校です。

学生募集要項や入学願書は、250円分の切手を貼付の上、住所・氏名を記入した角2号封筒を同封して本研究所へ請求して下さい。



富山ガラス造形研究所 / Toyama Institute of Glass Art
〒930-0143 富山県富山市西金屋80番地
076-436-2973 076-436-2974 (FAX)
e-mail: tigainfo@toyamaglass.ac.jp
<https://toyamaglass.ac.jp>
Instagram: [tiga_glass](https://www.instagram.com/tiga_glass)

